

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	22221002	研究期間	平成22年度～平成26年度
研究課題名	グリーンランド深層氷床コアから見た過去15万年の温暖化とその影響評価	研究代表者 (所属・職)	東 久美子 (国立極地研究所・研究教育系・准教授)

【平成25年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究では、NEEM コアを掘削し、最終間氷期から現在に至る機構・環境変動の連続復元を目指していた。岩盤まで到達する氷床コアの掘削に成功し、得られた資料から、北グリーンランドで最終氷期初期の12万6千年前は気温が現在よりも約$8\pm 4^{\circ}\text{C}$高く、最終氷期のグリーンランド氷床の氷量は現在の90%である等の知見が得られ、Nature 誌にも論文が掲載されるなどの成果が得られている。</p> <p>しかし、NEEM コアの深部において、氷の層に乱れがあることが明らかになったことにより、最終間氷期から現在に至る連続復元が困難となっており、氷床表面融解によって予定していた方式での高精度年代決定が難しく微生物のゲノム解析ができないこと等、当初研究計画からの適切な軌道修正にむけて今後の努力が必要である。</p> <p>この研究で得られた成果を、IPCC をはじめとする学術コミュニティや社会へ積極的に発信するよう期待する。</p>	